

編集人：ぶくぶくの会 〒564-0025 吹田市南高浜町1-17-2A (総務)
TEL 06-6317-5598、FAX 06-6317-0936 Mail: so-mu@puku-2.com URL: www.puku-2.com
代表：馬垣安芳 編集長：上田かおり 1部200円
年間購読料：個人会員2000円 広報会員(3部)5000円
法人会員1口(5部)10000円 賛助会員(1部)10000円
振替口座 00940-0-161341
「まねき猫通信」



もくじ

とくしゅう しょう ひと ぼうさい ひなんしえん
特集：障がいをもつ人の防災と避難支援 - 2
りれーえっせい：生きにくい世の中… - 轟広志 - 4
はしもと ごほう ぬ ぎぬめ かくし はんぱつ いしづかなおと
橋下「誤報」の濡れ衣に各紙の反発 - 石塚直人 - 5
れんさい とも い はたら かい あゆ
連載：共に生き働く～ぶくぶくの会の歩み③ - 6

題字：
塩澤 文男
(しおざわ・ふみお)

一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行



フリフリ♪
絵：まこ なまこ

トリの眼・ムシの目・ニャンコの目

60年安保の大闘争で、岸信介は「日米安保条約強行採決」と引き替えに辞任。直後に登場したのが「貧乏人は麦を食え」「私は嘘を申しません」の名(迷)言を後世にまで残した池田勇人。民衆の不満と怒りを爆発させた前政権の反省から、池田は徹底した低姿勢で「所得倍増」をスローガンに掲げ「寛容と忍耐」を全面に打ち出した。時代は、折しも高度経済成長長期に突入。その追い風を受けて「所得倍増」政策は支持され、充分に功を奏する▲岸の孫である安倍晋三は「国民所得を平均150万円上げる」と断言した。貧困と格差社会の根本的解決策もないまま、アベノミクスなどとして「バブル経済の二番煎じを演じていることは、安倍本人が一番よく知っているはず。池田を模して「所得倍増」と高らかに謳えない不甲斐なさと時代の閉塞性故に「150万円」の姑息な数字の語呂合わせが精一杯なのである▲国民所得(national income)は国民全体が得る所得の総額だから、個人も法人も、その総額が合算される。Aさんの年収が250万円から200万円になっても、B社の収益が350万円増えれば、AとBの「所得の平均」は150万円増える。こんなペテンに騙された「国民の皆様」が、またぞろ自民党に投票する…。 (ハギ)

に おく ひと だ 逃げ遅れる人を出さないための

しょう 障がいをもつ人 ひと ぼうさい 防災と ひなんしえん 避難支援

ふくしまけんたむらし 福島県田村市

すずききぬえ 鈴木絹江さん



鈴木絹江さん

6月1日、「逃げ遅れる人々」東日本大震災と障害者」上映会と鈴木絹江さんの講演会が行われました（茨城市福祉文化会館／主催・ぼぼんがぼん社会福祉法人設立準備会）。

この映画は、東日本大震災における障がい者の立場を描いたドキュメンタリーで、ぶくぶくの会も吹田で上映会を行っています。この日は2回の上映の間に、この映画にも登場されている福島県在住の鈴木絹江さんが『災害時、障がいをもつ人の避難や防災の在り方』『原発事故・放射能のとらえ方と防御』について講演

避難するぞお！

「原発が爆発した」と聞いて、テレビをつけると「ただちに人体に影響はない」と枝野官房長官（当時）が発表していました。でも私は、チェルノブイリ原発事故（1984年）の被害を知っていたので、「これは危ない」と直感しました。

され、『今何をすべきか』についても語って頂きました。今号と次号に渡って、講演内容と講演後のインタビューをまとめて掲載します。鈴木さんは、ご夫妻で1983年に未開拓地に入って農業を始めたそうです。50種の野菜と300羽の鶏を飼う有機農業です。電気はなく、ランプでの生活を8年続け、子どももできませんが、1997年、障がい者自立生活運動に参加。2001年、「ケアステーションゆうとびあ」を設立。障がい者の自立生活をサポートしています。（文責・編集部）

チェルノブイリ事故で覚えていたのは、①原発が爆発したら80キロ以上逃げる、②雨の中に放射性物質が含まれる、でした。すぐに職員を招集しました

が、ガソリンがなくて集まれないという連絡が入ったり、スーパーから食料が消えてなくなり、医療物資も入らなくなり、15日から雨が降るという予報だったので、事業所を休業し、避難すると決めました。雨が放射能が含まれている可能性が高かったからです。ひとり暮らしの利用者さんは事業所として私たちが責任を持って一緒に避難することにしました。

集まれる職員に集まってもらい、前倒しでお給料を渡しました。「もう二度と会えないかも

しれない」という危機感がありました。実際、15日に降り始めた雨は雪に変わって飯館村を襲い、飯館村は全村避難が続いています。

避難先の条件は、①冷暖房完備である、②温かい食事サービスがある、③適当に動ける広さがある場所でした。理由は、障がいをもつ人のなかには①体温調節が難しい方がいるからです。事故原発の20キロ圏内には多くの病院と施設がありました

避難はしてみたけれど…

震災から2カ月後、私たちの仲間が避難所を回ったら、障が

が、避難途中や直後にたくさんの方が亡くなりました。原因は、障がいや病気のものではなく、風邪をこじらせて肺炎とかです。冷たい床の上で硬いご飯を食べて、誤嚥性肺炎起こして亡くなる方も多かったのです。また、②食べてはいけないものや、必ず食べなければならぬものがあつたり、水分をたくさん摂らなければならぬ人も

「他人に迷惑をかける」ということでじっとしていたり、水分を摂らずにいると、必ず体調が悪くなるのです。動ける機能は動かせる広さがあることも重要でした。こうした条件を考え

ると、体育館ではなくホテルや旅館を目指すことになりました。まず会津地方の昭和村に避難し、最終的に新潟県

いをもつ人がほとんどいなかったそうです。避難所に行っても、「障がいをもつ人はちよつとね」と断られたという話や、体育館に入ったけれども、知ら

新発田市に避難しました。新潟は、中越地震の経験から毎月避難訓練をやっていたので、今回も素早い支援体制が整いました。体育館の避難所でプライバシーを保つためにダンボール等で簡易間仕切りを設置したのは長岡市でしたし、新発田市では仮設住宅の一角に洗濯機を設置して、避難者が使えるようにしてくれました。

避難の条件として4番目に入りたいと思っているのは、慣れた介助者と共に避難することです。慣れた介助者と共に避難することはとても大事です。

初期移動は、障がいや病気がもつ人の命を左右します。ただし、ホテルや旅館に入ってしまうと、役所関係からの情報が入らなくなるので、当事者と役所との間に入るコーディネーターが必要だと思いました。

ない場所、知らない人たちに囲まれて興奮状態になり、奇声を発してしまつたり、寝られなくて、車いすのまま何日もたつて、という話も聞きました。一般の

